



暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして
みんなが
住んでよかつた
と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 **黒田みち**

市会議員団控室 TEL 740-1111 (内線4020)
直通FAX 759-1811
黒田みち事務所 TEL 795-4760
たんぽぽだよりブログ
http://kurodamich.exblog.jp

自衛隊へ18歳、21歳名簿提供 市民に公表し今後中止を！！

川西市が自衛隊に「18歳と21歳男女および15歳男子の名簿」を提供していたことは、この間「たんぽぽだより」や「ブログ」「フェイスブック」でお伝えしましたが、この問題で私(黒田)も参加している「戦争に行くな!川西連絡会」は、名簿を提供した川西市に申し入れ、8月19日に市長部局と懇談、事実確認を行いました。

市側によると、平成25年7月4項目は他人に知られたく月に自衛隊側から要請がない個人情報そのものです。り、検討した結果、名簿(氏名、生年月日、住所、性別)的には保護措置」として提供したと説明。

自治体の裁量で
なぜ、名簿を提供したか。市は第一に「自衛官募集は自治体の受託事務(自衛隊法97条など)であること」を上げています。しかし、名簿の提供は義務ではなく、自治体の裁量は任されており、実際、兵庫県下で名簿を提供しているのは、41自治体のうち13市町だけです。

個人情報保護厳格に
第二の理由は、「市の個人情報保護条例上問題はない」として提供していますが、今回の氏名な

第二の理由は、「市の個人情報保護条例上問題はない」として提供していますが、今回の氏名な

第三の理由は「市と自衛隊双方を強く求めました。(今後、教育委員会との懇談も行いま

の保護を比べることに大きな疑問が残るのは当然です。
禁止の中卒者も提供
さらに重要なのは、H26年度、新規中学卒業生への文書募集は禁止されているのに、自衛隊が間違って15歳男子名簿の提供を依頼し市が提供してしまっただけのこと。

その後、間違いに気づいた自衛隊が市を訪れて間違いを説明。名簿を破棄し発送していかないことを「口頭」だけで行われていたこともわかりました。自衛隊への肩入れの過ぎ、なれ合いではないでしょうか。

そこで、「会」は改めて、①名簿提供の事実、内容を市民に公表すること②15歳の名簿提供に際しては、自衛隊との間違いの理由、経過を文章で確認しておくこと③今後名簿提供を行わないこと、な

「戦争に行くな!川西連絡会」は、「8・16強行採決忘れへん!レッドアクション」を呼びかけ、川西能勢口アステ2階広場で集会、その後パレードを行いました。

制服向上委員会の「大きな古時計の替え歌」のギターと歌でスタート。「ヒロシマの有る国で」「沖縄を返せ」など参加者が一緒に歌って盛り上がり、リレートークの後、それぞれがメッセージを掲げ、約120人が能勢口周辺をパレードしました。

「いろいろな人が集まって良かった」「廃案まで絶対にかんばる」などの声。高校生や若者も参加、「これからも自分にできることをしていきたい」と力強く語ってくれました。

戦争法案は廃案に アステ広場に120人

川西市内では、「市立川西病院」のすぐ近くの工場に、畳10畳ほどの「海外で戦争する国にさせない!」と大書した、九条の会かわにしの大きな看板が話題になるなど、「戦争法案は廃案」へのうねりが大きくなっています。

声をあげ、行動するのは、今!
共にがんばってまいりましょう!

気軽に市政懇談会♪出前出張、歓迎です!!

私(黒田)は、8月7、8日の2日間、北陵集会所と北陵公民館で「市政報告&おしゃべり会」を行いました。
北陵地域では、「丸山台3丁目の市有地(2.6畝)の売却」や「旧北部処理センターへの清掃業務全般の移転」など、住民の日常生活に影響が大きい施策が進められています。また、二転三転する川西市の公共施設の再配置計画や道理のない大型ごみの有料化、秋から実施されるマイナンバー制度などの問題もあり、参加された方々からいろいろなお声を聴かせていただきました。



黒豆の声

「権力者」は無関心な国民が大好きだ
「権力者」は黙っている国民が大好きだ
「権力者」は黙っている国民が大好きだ
「権力者」は黙っている国民が大好きだ

大型ごみの有料化などで「決まってから住民に知らせるやり方はおかしい」「私達は安心して住み続けたいって思っているだけ」「歩道もない急斜面の道にパッカー車など持ってくるなんて考えられない」など意見が出されました。「自治って何?」と両日共、市役所の仕事のあり方に関する質問や要望がたくさん出されました。猪名川町からの参加もありました。(このよ

でも国民は黙っちゃいけない
気づいたことを声にする
わかったことをエネルギーに
連帯が広がる
もう止まらない
だって私達国民が主人公
声をあげ
行動を起こそう
私達の未来は私達がつくる!

力を合わせ戦争法案廃案に



全国一ツ 100万人大行動へ

戦争法案ノ一 30日に集結

総がかり行動実行委が会見

「総がかり行動実行委員会」は20日、参院議員会館で記者会見を開き、戦争法案の廃案を求めて30日午後2時からおこなう「国会10万人・全国100万人大行動」の内容を説明しました。日本全国がひとつとなって大行動を成功させ、安倍晋三政権退陣へ決定的な打撃を与えようと呼びかけました。

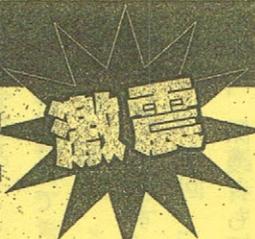
実行委員会の中心を担うの奥田愛基さんは「これまで3団体の代表が発言。「戦でにない大きな枠組みの行動となり。夜行バスを乗り継ぐなど、全国から数センター」の小田川義和氏は「法案の内容が明らかになるほど反対の声が大きくなる。今国会で成立させようなんて、とんでもない。大行動の成功へと全力で押し上げていく」と表明しました。

「解釈で憲法9条を壊すな！ 実行委員会」の高田健氏は「廃案に追い込むため、全力で準備を進めている」とのべ、「戦争をさせない1000人委員会」の福山真劫氏は「全ての勢力が一体となってたたかおう」と訴えました。

賛同協力団体として駆けつけた「安全保障関連法案に反対する学者の会」や、「立憲デモクラシーの会」の代表らが決意表明。S.E.A.L.D.s(自由と民主主義のための学生緊急行動)

戦争法案先取り

内部文書



「大行動」では、午後2万人が100万人にコールし、3時、3時55分と国会です。気合を入れています」と語りました。

「大行動」では、午後2万人が100万人にコールし、3時、3時55分と国会です。



仲間が危険を知らせる

国民に隠して戦争体制着々

日本共産党の小池晃議員が示した内部文書は、安保法案成立前から国民の知らないうちに、違憲の集団的自衛権行使の自衛隊体制づくりが進んでいることを示しています。非常に大きな問題です。

集団的自衛権とは、米国の戦略のために自衛隊を海外で戦争させることです。

安保法案に先立つ4



元外務省国際情報局長 孫崎 享さん

月に、日米両政府はガイドライン(日米軍事協力の指針)を改定しました。ここには「同盟調整メカニズム」という日米軍事協力の新たな枠組みが盛り込まれました。これまでは「周辺事態」など紛争が起きた時に立ち上げる枠組みがありました。しかし、内部文書によると、新たな枠組みを常設するとともに、その中に「軍軍間の調整所」つまり米軍・自衛隊直結の仕組みも常設するというのです。これは自衛隊を米軍の作戦にさらに深く一体化する仕組みです。沖繩での米軍ヘリ事故もこの動きに関係していると思います。へリは地球規模で展開する米陸軍の特殊部隊所屬。同乗していた陸上自衛隊員も特殊部隊所屬です。イラクなど日本から遠い地域を想定した共同訓練とみるべきでしょう。

自衛隊内部資料がこんな形で明らかになるのは、自衛隊内部にも法案への危機感が広がっていることを示していると思います。

国会・国民軽視あらわ 許されない暴走・逸脱

日本共産党の小池晃副委員長が暴露し、国会で追及している自衛隊統合幕僚監部の内部文書問題を各紙が社説などで批判しています。

「朝日」20日付社説は、内部文書について「日米防衛協力のための指針(ガイドライン)と安保法案に伴う、対米支援の具体的な内容が含まれている」とした上で、「それぞれ十分な議論が必要な内容なのに、国会にも国民にも伏せられてきた。」

統幕内部文書 各紙が批判

政権の国会軽視、国民軽視の姿勢が改めてあらわになった」と批判。「資料が明確に示すのは、日米の軍事的な『一体化』がいつそう進む方向性である」と指摘しています。

小池質問で明らかになった「軍軍間の調整所」の設置や南シナ海での情報収集、警戒監視と偵察など、日米共同計画の具体的検討にふれ、「まさに法案成立を先取りした計画だ」と批判しました。

「東京」20日付社説は、内部文書の重大性について「法案の八月成立を前提に、自衛隊の活動範囲拡大まで検討するのは行き過ぎだ。実力組織の『暴走』が許されないのは先の大戦の教訓ではないか」と指摘。「一般論としては、所管省庁が法案成立後の対応を検討するのは当然だが、自衛隊は防衛力を有する実力組織である。活動範囲や内容の拡大には慎重を期すべきで、国権の最高機関たる国会のシヒリアンコントロール(文民統制)に厳格に従わなければならない」と告発している。